



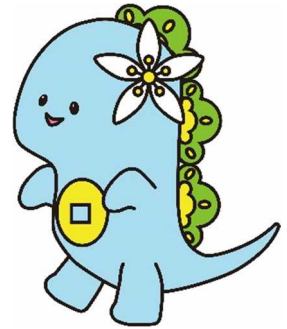
観音寺市立観音寺中学校 学校通信

ひだまり

観音寺中学校
学校通信
No. 4
R6.5.9 (木)

いじめや暴力のない学校を目指して

本年度、本校では「志を持って 自ら学ぶ 心豊かな生徒の育成」を学校教育目標としてスタートしましたが、取組みの重点の一つに「生徒指導等の充実」を掲げています。ここで、生徒指導と聞くと、よく学園もののテレビドラマ等に登場する、厳しそうな先生が、正門前で頭髪や服装の指導をしたり、事件等が起こってから生徒を叱ったりする場面を想像してしまいがちですが、本来はそれらが生徒指導の中心ではありません。生徒指導とは、子どもたちが自分自身をよく理解し、「何をしたいのか」、「何をすべきか」を考え、自分の目標を選択・設定して、目標に向かって自分の行動を決断し、実行する力を身に付けさせるために指導、援助することをいい、子どもたちに身に付けさせたい力を「自己指導能力」といいます。



自己指導能力が身に付いた生徒は、自分で決めた目標（志）に向かって努力します。他者と協力することで得られることも大きいので、人に対して優しくなり、いじめや暴力などの行動をとることがなくなります。ではどうすれば自己指導能力を身に付けさせることができるのでしょうか？

- 本校では、自己指導能力を身に付けさせるため、すべての教育活動の中で、生徒が活躍し、やり抜いたという達成感や成就感を味わえるような工夫をしていきたいと考えています。例えば、今週末5月11日（土）に体育大会が開かれますが、その中で披露される「観中ソーラン」や「校歌うたい隊」の活動などは同じ志を持つ生徒どうしが協力しながら、大勢の観客の前で練習の成果を披露する機会をつくることも工夫の一つです。活動が終わった後に活動を振り返らせ、自分の行動を見つめることで効果はさらに高まります。

体育大会では、観客（保護者や地域の皆さん）の喝采が生徒にとって大きな自信につながり、さらに高みを目指して努力しようという気持ちを持たせることにつながりますので、ぜひ応援に来ていただければ幸いです。



(昨年度の体育大会の様子)

- 一方で、学校は、生徒間のトラブルや触法行為にも適切に対応していく必要があります。本校では、県教育委員会からスクールサポートチームと呼ばれる警察OB等で構成されるスタッフの派遣を受けており、教職員と協力しながら生徒が安心して生活できる環境づくりに取り組んでいます。また、国が令和4年12月に出した「生徒指導提要」（マニュアルのようなもの）には、学

校が警察や児童相談所、少年育成センター等関係機関と連携することの重要性が述べられており、県や市は警察と協定を結び「学校・警察相互連携制度」をつくっていますので、学校としても悪質ないじめや暴力行為は警察と連携していきます。このことについては、どうかご理解をお願いいたします。

- 学級や学年団だけでなく、部活動（校外でのスポーツや文化的活動も含む）での経験も大切です。自分で選んでいること、異学年がいっしょに活動することが、授業や学校行事などとは大きく異なる点ですが、同じ志を持つ生徒どうしが協力しながら、自分自身やチームの技能を高めるという目標に向かって活動しますから、先に説明した自己指導能力を高める手立てになります。
- さらに学校における部活動では、先輩・後輩など人間関係のあり方や、友だちと互いに切磋琢磨すること、集団における規律の大切さなど、学ぶことは多いと考えています。しかし、そこでもいじめや暴力行為等のトラブルが発生することがあり、その場合の対処法として、当事者や観ていた者から話をよく聞いて事情を明らかにし、トラブルを解決に導くことの他に、一定期間、活動を停止したり、対外試合等を自粛したりすることなどがあげられます。一般に悪いことをしたら法律に基づいて裁かれ罰を受けるわけですから、子どもたちが将来、社会に出る前の段階のルールとして、また、部の規律を維持し、すべての部員が安全・安心に活動していくために、部の特徴に応じたルールを決めて守らせる、守れない場合はペナルティを科すことなどの措置は必要と考えています。もちろん、そういった事態にならないことが一番なのですが、今後万一、部内でいじめや暴力行為などが起こった場合には、その状況に応じた対応をとらせていただくことがあるということをお知りおきください。

話の内容が重いものになってしまいましたが、私が言いたいことの中核は、「観音寺中学校を、いじめや暴力のない、明るく楽しい学校にしたい」ということです。そのための、もう一つの取り組みの重点が「道徳教育及び人権・同和教育の充実」です。

- 本校では、毎月10日を「観中道徳の日」、20日を「観中人権の日」と定め、通信やたよりを教材として生徒の心を耕す取り組みを伝統的に行っています。毎日が足早に過ぎていく中で、節目節目で立ち止まり、教科書等教材にある事実と、自分の知識や体験を通じて考えたことなどを基にして、人として価値のある行動とは何かを考える時間や機会を持つことは、中学生の時期にはとても大切です。まず自分自身を価値ある存在として認識し、前向きに生きる力を身に付けようとする、そして他者（家族や友だちなど）も同様に価値ある存在として尊重し、互いに認め合い支え合う関係づくりに努めようとする、そんな意識や態度を養うことを目指しています。



(昨年度の人権集会の様子)

これらの取り組みを結実するためには、学校、家庭、地域が思いを共有し、協働しながら子どもと関わるのが大切です。これまで同様、学級担任や部活動顧問等を通して、お子様の良いことも心配なこともお伝えしながら、その成長を支えたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。